

目指すべき理想の年代構成の実現について

本学では、教育研究の活力を維持し、さらに進展させ、持続可能な研究体制を構築することを目指して、年齢や職位の構成等の偏りによる組織の硬直化を避けるために、人事給与マネジメント改革の一環として、中長期的な目指すべき理想の年代構成の設定にあたり、年齢層別の在籍者比率などの現状値や今後の自然変動要因（教員年齢の年次進行、定年退職、新規採用等）、理想の年代構成の実現に向けた人事給与施策の実施などを踏まえて、本学における中長期的に目指す理想の年代構成を「若手教員比率 30%・中堅層・シニア教員比率 70%」程度とすることを目指しています。この年代構成は、「科学技術・イノベーション基本計画（第6期）」において、研究力強化の観点から「将来的に、大学本務教員に占める40歳未満の教員の割合が3割以上」という数値目標が定められていることも考慮して設定したものです。

教員の年代構成について（令和8年5月1日現在）

年齢区分		教授			准教授			講師			助教			特任教員等			総計				
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	割合	
シニア・中堅層	60～65	21	5	26	5	2	7	2		2	1		1		1	1	29	8	37	240	73.8%
	55～59	13	1	14	10	1	11	7	3	10	3	2	5				33	7	40		
	50～54	9	2	11	7	2	9	17	4	21	4	4	8				37	12	49		
	45～49	3		3	10		10	6	1	7	25	11	36	3	1	4	47	13	60		
	40～44				4		4	8		8	21	15	36	3	3	6	36	18	54		
若手層	35～39							2		2	31	15	46	8	3	11	41	18	59	85	26.2%
	30～34							2		2	13	7	20	3	1	4	18	8	26		
	25～29																				
合計		46	8	54	36	5	41	44	8	52	98	54	152	17	9	26	241	84	325		

目指すべき理想の年代構成

- 目標 ①令和9年度までに若手教員（40歳未満）の比率を25%とする。
 ②将来的に若手教員比率30%を目指す。

理想の年代構成を実現するための基本方針

- 若手教員が資質・能力を十分に発揮できるよう教育・研究・診療に専念できる体制を整備する。
- 優秀な若手人材を雇用するよう努める。
- 外部資金獲得により、戦略的に若手教員の新規教員採用枠を確保する。

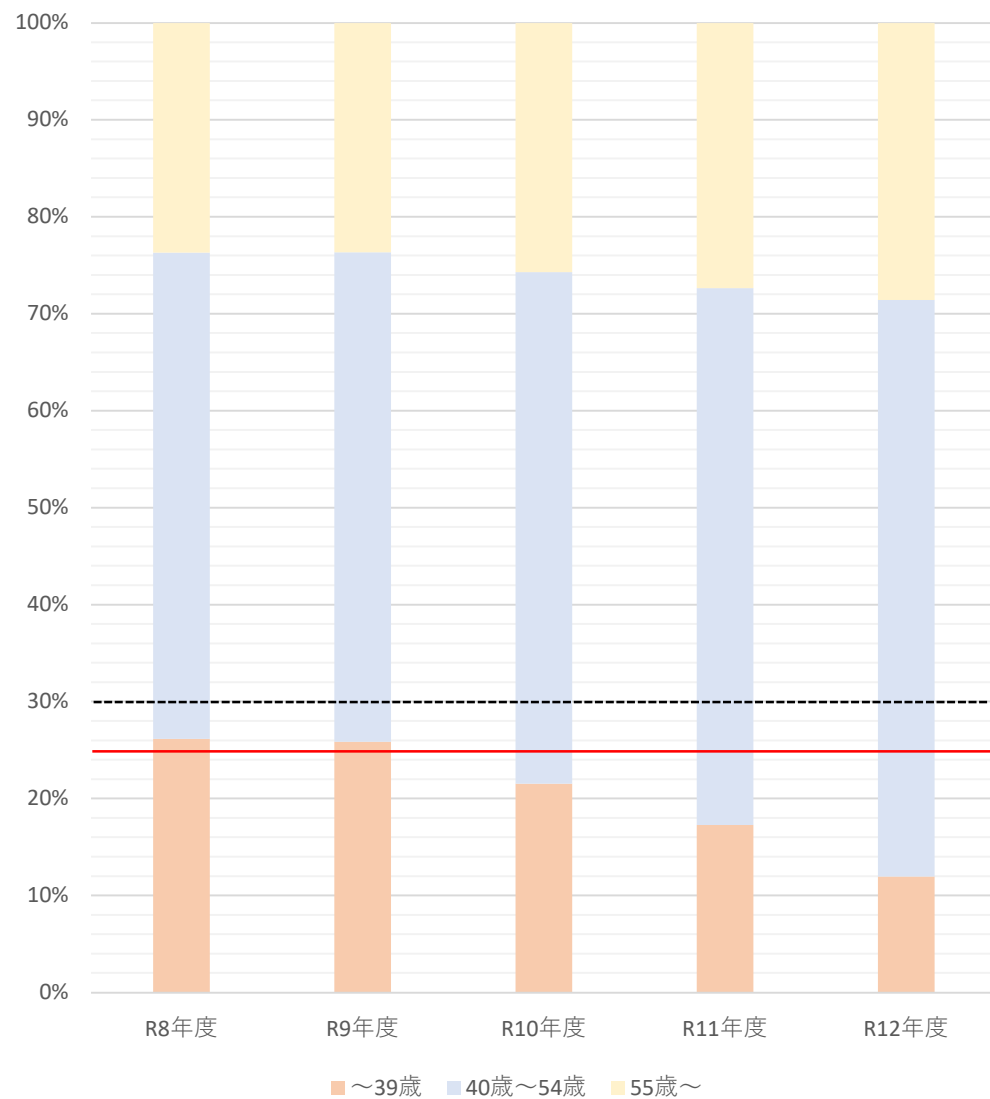
教員の年代構成比率

年齢基準日	39歳以下	40歳～54歳	55歳以上
令和6年5月1日	23.5%	51.8%	24.7%
令和7年5月1日	25.9%	50.9%	23.2%
令和8年5月1日	26.2%	50.1%	23.7%

※特任教員等含む

特任教員（外部資金雇用）	39歳以下
令和7年5月1日	54.2%
令和8年5月1日	57.7%

年次進行による年代構成の推移
(定年退職のみ考慮)



年次進行による年代構成の推移
(定年退職及び新規採用を考慮)

